

資料 1

観光コンテンツプロデュース会議における  
これまでの検討状況について

## プレスリリース

Reconstruction Agency

新たなステージ 復興・創生へ

### 記者発表資料

平成 29 年 9 月 13 日

復興庁岩手復興局

### 第1回観光コンテンツプロデュース会議を開催します。

復興庁岩手復興局では、平成 28 年 4 月に取りまとめられた「東北観光アドバイザー会議」の提言等を踏まえ、岩手県を中心とした北東北の新たな観光コンテンツの開発や既存の観光コンテンツの磨き上げ、外国人向け旅行商品の造成等を行うことで、岩手県を中心とした北東北の観光復興を目指す事業(岩手県を中心とした北東北インバウンド誘客推進調査・検討等業務、以下「本事業」)を現在実施しております。

本事業の一環として、岩手県を中心とした北東北へのインバウンド旅行者誘致と受け入れを推進するため、現状やその課題を把握し、目指すべき方向性を共有し、その取組を検証する場として、この度第1回観光コンテンツプロデュース会議(以下「会議」)を下記の通り開催します。

会議については年度内に 4 回を想定しており、今回はその第 1 回となります。最終回は機運醸成や意識啓発等を目的とした成果発表会(仮称)の開催を予定しています。

### 記

1. 日時 平成 29 年 9 月 15 日(金) 13:00~15:00
2. 場所 復興庁岩手復興局 4階会議室  
(岩手県盛岡市中央通1-7-25 朝日生命盛岡中央通ビル4階)
3. 議題
  - ・本事業の方向性及び課題の検証について
  - ・調査エリアの選定と実践委員の承認について
  - ・地域コンテンツ収集の際の視点について 等
4. 委員 別紙1のとおり

※報道関係者による取材が可能です。ご希望の方は別紙2の取材申込用紙に記入の上、FAXにて事前に申し込みをお願いします。当日は、申し込まれたご本人であることを証明できる社員証又は名刺などをご呈示願います。

### 問合せ先:

復興庁岩手復興局 観光・調整班 小林

電話 019-654-6609

FAX 019-654-6612

別紙1

## 観光コンテンツプロデュース会議 委員名簿

(座長)南 正昭	岩手大学理工学部 教授
五味 壮平	岩手大学人文社会科学部 教授
雫石 吉隆	株式会社ライト・ア・ライト 顧問
菅原 達也	株式会社ナレッジハウス 代表取締役
阿部 昌孝	株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル 地域交流推進部長

(敬称略)

# 第1回観光コンテンツプロデュース会議の開催について

## 会議の様子



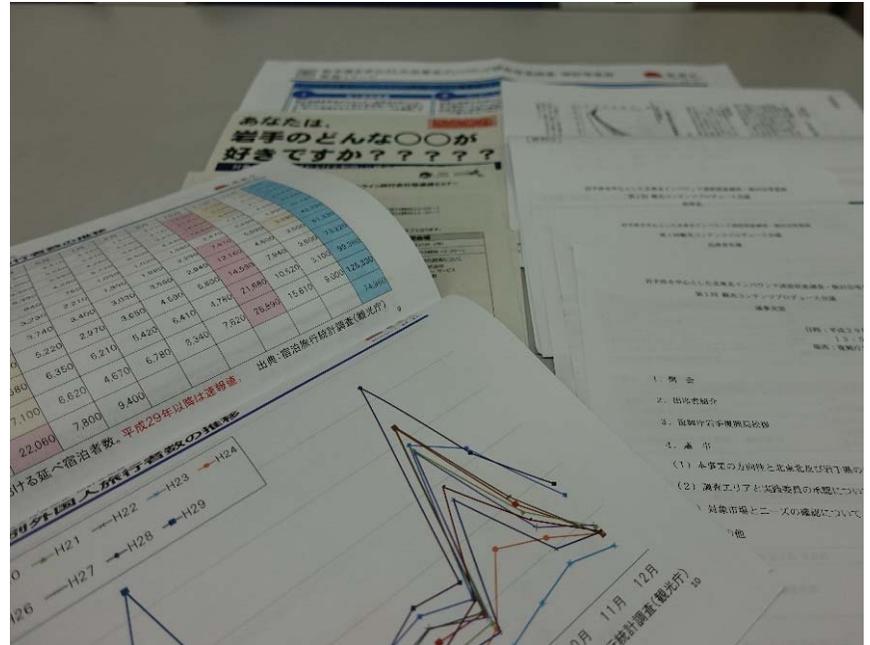
会場の様子



事務局説明の様子



委員の様子



配付資料 ※復興庁HPに掲載済み

# 第1回観光コンテンツプロデュース会議の開催について

## 新聞記事等

※下記の他、岩手朝日テレビ「Jチャンネルいわて」でも放送。

外国人の誘客へ  
コンテンツ探る  
本県関係者ら初会合  
本県など北東北への外国人観光客の誘客推進を図る観光コンテンツプロデュース

ス会議の初会合は15日、盛岡市中央道の復興庁岩手復興局で開かれた。今後は県内を3地域に分けたエリア検討会を併せて開き、沿岸部を中心に計15件の誘客コンテンツ(商品)を開発する。出席者からは「国ごとに関連する形を踏まえた検討や季節に偏りがない商品構成を求める声が出た。約20人が出席した。同会議は岩手復興局のインバウンド推進事業の一環。官民の観光・地域振興の専門家が現状や課題を把握し、

取り組みを検証する場として設置された。岩手大理工学部の南正昭教授が座長に就いた。本県への外国人観光客(従業員10人以上の施設の宿泊者数)は2016年に過去最高の12万5330人を記録し、ほぼ半数が台湾から。一方、台湾に次ぐ重点市場となる韓国や香港は震災前より少なく、全体の来県時期も紅葉の10月と桜の4月に偏る傾向がある。会合では商品づくりの留

意点などについて意見交換。JTBグローバルマーケティング&トラベルの阿部昌孝地域交流推進部長は「コースを自分で考える外国人は多い。まずは日帰りや1泊2日の商品を作ってみて、流通させる段階で、どう組み合わせ、どこに売っていくのか決めれば良い。季節や曜日の平準化も大切」と提案した。同会議は今後、現地調査などを行い、来年2月ごろにエリア検討会と合同で成果発表会を開く予定だ。



## ニュース



外国人旅行者増加へプロデュース会議／岩手・盛岡市 2017年09月15日 18:50 更新

外国人旅行者の誘致で、観光分野の復興を進めようという取り組みが15日、岩手県盛岡市で始まりました。盛岡で初会合を開いた「観光コンテンツプロデュース会議」は、岩手復興局が観光分野の復興を進めようと立ち上げたもので、大学教授や旅行代理店の社員などがメンバーとなっています。岩手・北東北の観光をアピールするターゲットは、年々増加している外国人旅行者です。おとし全国での延べ宿泊者数が、過去最高の1974万人を記録しました。しかし東北の延べ宿泊者数はおよそ51万人で、震災前の水準には戻ったものの、全体の1%未満にとどまっています。会議では今後、インバウンドをどれだけ誘致できるかが、観光の復興に大きく関わると確認されました。このほか委員から「来日前に予約するのではなく、来日してから選べるのが良い」「季節や時間帯を考えるべき」といった、観光メニューづくりへの意見が出されました。会議は今年度中にと3回行われ、インバウンドの増加につながる旅行商品の完成を目指します。

平成29年9月15日 IBC岩手放送※  
「IBCニュースエコー」で放送

※受託事業者

[http://news.ibc.co.jp/item\\_31183.html](http://news.ibc.co.jp/item_31183.html)

今日の二  
年賀はがき  
め国体リポ  
早く、分カ



震災  
復興!

平成29年9月16日 岩手日報※ 朝刊に掲載  
※受託事業者

# 第1回観光コンテンツプロデュース会議の開催について

## 新聞広告

**座長に聞く・岩手大理工学部 南正昭教授**

岩手を中心とした北東北のさらなる地域振興、復興のためには、海外からの旅行者の増加が重要です。

このプロジェクトには、各地域の観光産業に関わる人たち、食、町並みなどの資源を全て活用し、岩手を中心とした地域の復興と振興を皆で進めるという意味があります。大切なのは、地域と人たちが一緒に「行う」ということです。

初回の会議では、皆さんがいろいろな視点でプロジェクトについて考えてくれました。観光客を受け入れる地域側の問題、観光コンテンツを

東日本大震災から6年半余りが経過し、三陸沿岸では、高速道路整備などの復興・創生が急ピッチで進んでいます。本会議は、その各種の状況を踏まえ、外国人観光客の観点から、岩手の観光資源を磨き上げるために開催します。

**阿部** インバウンドの観光コンテンツを作るには、どの季節をどのような形で魅力的にブラッシュアップしていくかが大事になってきます。東北の新緑は本当にきれいです。その時期は旅行者が少ない。そういう時期の魅力発信し、観光にきていただけられるようにできればいいと思います。

**五味** 季節性や、オリンピックなどのタイミングを加味し、全部の商品が相互に補い合うような視点があっても良いと思います。

**磐石** 泊まりたいから来るのではなく、やりたいことを全て体験するために泊まらざるを得ないから泊まる、というような組み方をする必要もあると思います。

**阿部** 商品の作り方を地域の人たちに一緒に学んでもらうのが良いですね。インバウンドのコンテンツを作るのは大変です。その過程が将来地域の中で役立つような仕組み作りが地域に入る私たちのミッションです。

**南** そのミッションはとても大切だと思います。地域の方に分かりやすい仕組みにするためには作ったコンテンツへの「採点結果」のようなものがあったほうが努力しやすいかもしれません。

**菅原** 地域でどれくらいの商品数があがってくるのかの想定が難しいですね。地域に商品がある程度作ってもらい、我々がブラッシュアップする形なのか、あるいは入って商品を出していくのか考えなくてはいいと思います。

「オール岩手」でインバウンド旅行者を受け入れ

「126.8万人県民コンシェルジュ」実現へ

◇出席者  
南正昭氏(座長・岩手大理工学部教授)  
五味平氏(岩手大人文社会科学部教授)  
菅原達也氏(ナレッジハウス代表取締役)  
磐石吉隆氏(ライト・ア・ライト顧問)  
阿部昌幸氏(JTBグローバルマーケティング&トラベル営業企画部 地域誘客戦略推進室 地域交流推進部長)

企画・制作 / 岩手日報社広告事業局

人が自ら理解し、発信していく。それが海外の方々が岩手に来るための価値を発掘することにつながるはず。このプロジェクトが新たな観光の形や地域づくりへとつながる一つのきっかけになればいいと思います。



いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト(主催・復興庁)の第1回観光コンテンツプロデュース会議は15日、盛岡市で開催されました。被災地支援や観光推進、地域振興などに関わる委員が「事業の方向性と北東北および岩手県の課題について」「地域コンテンツ収集の際の視点について」などについて議論を交わしました。今後は県内を3地域に分けたエリア検討会を併せて開き、沿岸部を中心とした計15の誘客コンテンツ(商品)を開発します。

## 第1回観光コンテンツプロデュース会議

東日本大震災から6年半余りが経過し、三陸沿岸では、高速道路整備などの復興・創生が急ピッチで進んでいます。本会議は、その各種の状況を踏まえ、外国人観光客の観点から、岩手の観光資源を磨き上げるために開催します。

**阿部** インバウンドの観光コンテンツを作るには、どの季節をどのような形で魅力的にブラッシュアップしていくかが大事になってきます。東北の新緑は本当にきれいです。その時期は旅行者が少ない。そういう時期の魅力発信し、観光にきていただけられるようにできればいいと思います。

**五味** 季節性や、オリンピックなどのタイミングを加味し、全部の商品が相互に補い合うような視点があっても良いと思います。

**磐石** 泊まりたいから来るのではなく、やりたいことを全て体験するために泊まらざるを得ないから泊まる、というような組み方をする必要もあると思います。

**阿部** 商品の作り方を地域の人たちに一緒に学んでもらうのが良いですね。インバウンドのコンテンツを作るのは大変です。その過程が将来地域の中で役立つような仕組み作りが地域に入る私たちのミッションです。

**南** そのミッションはとても大切だと思います。地域の方に分かりやすい仕組みにするためには作ったコンテンツへの「採点結果」のようなものがあったほうが努力しやすいかもしれません。

**菅原** 地域でどれくらいの商品数があがってくるのかの想定が難しいですね。地域に商品がある程度作ってもらい、我々がブラッシュアップする形なのか、あるいは入って商品を出していくのか考えなくてはいいと思います。

人が自ら理解し、発信していく。それが海外の方々が岩手に来るための価値を発掘することにつながるはず。このプロジェクトが新たな観光の形や地域づくりへとつながる一つのきっかけになればいいと思います。

いわて外国人向け観光コンテンツ発掘プロジェクト

復興庁岩手復興局

平成29年9月26日 岩手日報※ 朝刊に掲載  
※受託事業者

# 第1回観光コンテンツプロデュースエリア検討会の開催について

## プレスリリース

新たなステージ 復興・創生へ

記者発表資料  
平成29年9月28日  
復興庁岩手復興局

### 第1回観光コンテンツプロデュースエリア検討会を開催します。

復興庁岩手復興局では、岩手県を中心とした北東北の新たな観光コンテンツの開発や既存の観光コンテンツの磨き上げ、外国人向け旅行商品の造成等を行うことを目的として、去る9月15日に第1回観光コンテンツプロデュース会議(座長:南 正昭 岩手大学教授、以下「会議」)を開催しました。

会議での検討結果を踏まえ、岩手県北、県央及び県南の3エリアにおいて、エリアごとの新たな観光コンテンツの開発等を行うため、この度、第1回観光コンテンツプロデュースエリア検討会(以下「検討会」)を下記のとおり開催します。

検討会開催数は各エリア年度内5回を想定しており、今回はその第1回となります。最終回は会議と合同で、機運醸成や意識啓発等を目的とした成果発表会(仮称)の開催を予定しています。

#### 記

#### 1. 日時および場所

- 平成29年10月3日(火) 13:00~16:00 県北エリア(久慈市役所3階大会議室)
- 平成29年10月3日(火) 13:00~16:00 県南エリア(大船渡市役所地階会議室)
- 平成29年10月4日(水) 13:00~16:00 県央エリア(山田町中央コミュニティセンター)

#### 2. 議題

- 『各調査エリアの現状把握と課題の共有』(予定)
  - ・岩手県と各調査エリアの現状把握(課題の共有)
  - ・岩手県と各調査エリアの目指したい姿の共有
  - ・今後の取組の方向性の確認(売り出したいモノ・コト、ターゲット等)
- ※各回ご参加の皆様主体のワークショップ形式にて進行いたします。

#### 3. 委員 別紙1のとおり

※報道関係者による取材が可能です。ご希望の方は別紙2の取材申込用紙に記入の上、FAXにて事前に申し込みをお願いいたします。当日は、申し込まれたご本人であることを証明できる社員証又は名刺などをご呈示願います。

問合せ先:  
復興庁岩手復興局 観光・調整班 小林  
電話 019-654-6609  
FAX 019-654-6612

別紙1

### 観光コンテンツプロデュースエリア検討会 参加予定者

#### ○県北エリア(久慈市役所)

平成29年10月3日(火)13:00~16:00  
菅原 達也 株式会社ナレッジハウス 代表取締役 (座長)  
岩手県復興・観光担当部局  
県北エリア市町村復興・観光担当部局  
観光協会など関係機関

12名参加

#### ○県央エリア(山田町中央コミュニティセンター)

平成29年10月4日(水)13:00~16:00  
栗石 吉隆 株式会社ライト・ア・ライト プロデューサー (座長)  
岩手県復興・観光担当部局  
県央エリア市町村復興・観光担当部局  
観光協会など関係機関

14名参加

#### ○県南エリア(大船渡市役所)

平成29年10月3日(火)13:00~16:00  
阿部 昌孝 株式会社JTB グローバルマーケティング&トラベル  
営業企画部 地域交流推進部長(座長)  
岩手県復興・観光担当部局  
県南エリア市町村復興・観光担当部局  
観光協会など関係機関

19名参加

以上



## プレスリリース

新たなステージ 復興・創生へ

### 記者発表資料

平成 29 年 10 月 18 日  
復興庁岩手復興局

### 第2回観光コンテンツプロデュースエリア検討会を開催します

復興庁岩手復興局では、岩手県を中心とした北東北の新たな観光コンテンツの開発や既存の観光コンテンツの磨き上げ、外国人向け旅行商品の造成等を支援するため、現状把握、目指すべき方向性の共有、取組の検証を行う場として、第1回観光コンテンツプロデュース会議(座長:南 正昭 岩手大学教授、以下「会議」)を9月15日に開催しました。また、第1回会議での検討結果を踏まえ、岩手県北、県央及び県南の3エリアにおいて、10月3日・4日に第1回観光コンテンツプロデュースエリア検討会(以下「検討会」)を開催し、各エリアの現状把握や課題の共有等を行いました。

今回、第1回会議及び第1回検討会の内容を踏まえ、「観光コンテンツの整理」や「受入環境」等について、エリアごとに検討を行うため、自治体担当者に加え、地域の実践者(観光協会、宿泊施設、観光・商業施設、公共交通機関、旅行者、その他観光・復興関係者)や、地域のリーダーとなる方にもご参加いただき、下記の通り、第2回検討会を開催します。

### 記

#### 1. 日時および場所

- 平成 29 年 10 月 23 日(月) 13:00～16:00 県北エリア(普代村役場3階大会議室) ※台風のため11/9に延期
- 平成 29 年 11 月 2 日(木) 13:00～16:00 県央エリア(道の駅・みなとオアシスみやこ シートピアなあと2階研修室)
- 平成 29 年 10 月 24 日(火) 13:00～16:00 県南エリア(大槌町中央公民館3階大会議室)

#### 2. 議題

「各エリアで強みにしたいコンテンツの魅せ方の検討」(予定)

- ①コンテンツを集約した結果の提供
- ②既存のコンテンツの状況の整理
  - ・地域の受入環境(ハード面・ソフト面)
  - ・受入団体の状況
  - ・実施している販売、情報発信方法 等

※第1回検討会と同様、ご出席の皆様主体のワークショップ形式にて進行致します。

#### 3. 参加予定者 別紙1のとおり

※報道関係者による取材が可能です。ご希望の方は別紙2の取材申込用紙に記入の上、FAXにて開催日の前日までに申し込みをお願いいたします。当日は、申し込まれたご本人であることを証明できる社員証又は名刺などをご提示願います。

#### 問合せ先:

復興庁岩手復興局 観光・調整班 小林  
 電話 019-654-6609  
 FAX 019-654-6612

別紙1

### 観光コンテンツプロデュースエリア検討会 参加予定者

#### ○県北エリア(普代村役場)

~~平成 29 年 10 月 23 日(月)~~ 13:00～16:00 ※台風のため11/9に延期

菅原 達也 株式会社ナレッジハウス 代表取締役 (座長)  
 岩手県観光・復興担当部局  
 県北エリア市町村観光・復興担当部局  
 観光協会、宿泊施設、観光・商業施設、公共交通機関など  
 地域の実践者、リーダー

12名参加

#### ○県央エリア(道の駅・みなとオアシスみやこ シートピアなあと)

平成 29 年 11 月 2 日(木) 13:00～16:00

雫石 吉隆 株式会社ライト・ア・ライト プロデューサー (座長)  
 岩手県観光・復興担当部局  
 県央エリア市町村観光・復興担当部局  
 観光協会、宿泊施設、観光・商業施設、公共交通機関など  
 地域の実践者、リーダー

21名参加

#### ○県南エリア(大槌町中央公民館)

平成 29 年 10 月 24 日(火) 13:00～16:00

阿部 昌孝 株式会社 JTB グローバルマーケティング & トラベル  
 営業企画部 地域交流推進部長(座長)  
 岩手県観光・復興担当部局  
 県南エリア市町村観光・復興担当部局  
 観光協会、宿泊施設、観光・商業施設、公共交通機関など  
 地域の実践者、リーダー

16名参加

以上

# 第1回観光コンテンツプロデュースエリア検討会の開催について

## 県北エリア(久慈)会場の様子



会場の様子



ワークショップの様子(その1)



ワークショップの様子(その2)



発表の様子

# 第1回観光コンテンツプロデュースエリア検討会議事(県北)

## 座長講話内容

座長:ナレッジハウス代表取締役 菅原達也氏

- (1)自己診断 内部環境(強み・弱み)と外部環境(脅威・機会)
- (2)どんなお客様へ何を提供するか(マーケティングと言う言葉)
- (3)私の地域はこんな地域だ!!(地域コンセプトを作る)
- (4)MKMT(中村勘三郎が言う自分の人生観)イノベーション
- (5)お店・施設・観光地(コーペティションと言う言葉)  
(今の競争は地域対地域の競争である)
- (6)地域活性化と観光開発
- (7)事業モデル概要
- (8)自分たちの環境分析(SWOT分析)
- (9)観光資源分類
- (10)事例研究(鳥羽の海女)

## ワークショップ内容

【課題1】地域を確認し、グループで協議をして地域資源を評価する。

- 1、地域を選択する
  - (1)ご自身の住まいの地域/行政単位

【作業1】観光資源の分類

- 1、地域資源を分類する(一般的な分類方法)  
各項目を5~10項目程度抽出する。
  - (1)自然環境・景観
  - (2)歴史・文化財
  - (3)食・特産品
  - (4)人や生活文化

【作業2】抽出した項目の評価

- 1、グループで地域資源の評価を行う
  - (1)認知度(外部評価であるが自分たちで5段階評価をする)
  - (2)魅力度(同上)
  - (3)愛着度(5段階評価)
  - (4)自慢度(5段階評価) ⇒
    - ①重要(地域の宝だ)
    - ②やや重要(地域の宝になり得る)
    - ③普通(現状では単なる資源)
    - ④現状ではやや不満
    - ⑤現状では不要

## 参加者発表内容

3つのグループに分け、ワークショップを実施。

【葛巻町チーム】

- 一番評価が高かったもの  
⇒くずまきワイン・くずまき高原牧場の乳製品・森のそば屋
- 評価が低かったもの ⇒廃校が6つある点・曲がり家・クリーンエネルギー
- 葛巻町では、ワインの収穫祭を実施しているのですが、町外からの認知度が低い  
クリーンエネルギーは内部の評価が低い、外部の評価は高いという結果。

【八幡平市チーム】

- 総合評価が高いものは、温泉・自然関係とくに十和田八幡平国立公園や八幡平ドラゴンアイ。
- バックカントリー(山スキー)については、内部の認知度は高いが、外部の認知度は低いことにびっくりした。
- マタギ文化の外部の認知度が高かった。

【久慈市チーム】

- 『あまちゃん』のロケ地目的で、台湾を中心とした訪日外国人が来ている。
- 一番の認知度は、日本一の白樺。
- 平庭高原スキー場は、太平洋が望める珍しいスキー場のため、売りにしていきたい。
- 東北一の強アルカリ温泉=べっぴんの湯を資源として活用していきたい。
- 海産物を売りにしたコンテンツも造成していきたい。
- 『みちのく潮風トレイル』は自然を訴求できる観光資源と思われる。
- 全国闘牛大会も実施している闘牛の歴史と文化の情報発信が必要
- シャワークライミングは体験型旅行商品として活用していきたい
- 久慈広域は琥珀の産地。



## 県北エリア(普代村)会場の様子



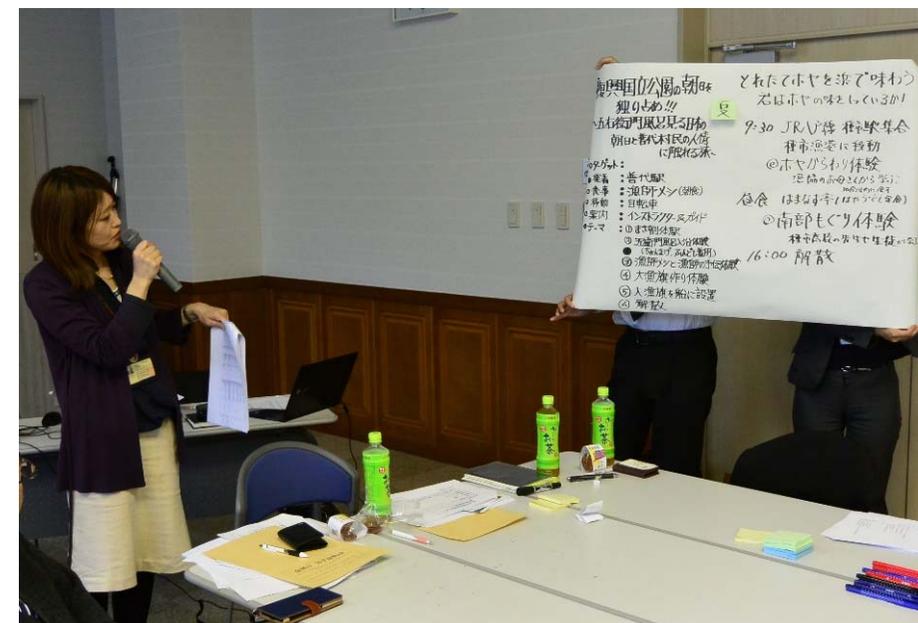
会場の様子



ワークショップの様子(その1)



ワークショップの様子(その2)



発表の様子

## 座長講話内容

座長：ナレッジハウス代表取締役 菅原達也氏

- (1)観光振興、地域づくりの一体化
  - ・マーケティング活用、地域のサービスの提供、持続可能な環境整備
- (2)観光地がマネジメント(9つの領域のマネジメントの必要性)
- (3)発地型旅行会社との今後の関係(地域と大手旅行会社は対等な関係)
- (4)DMOの検討を始める(観光推進組織の在り方を問う！)
- (5)事例研究 鹿野観光ふるさと館
  - ・取組概要
  - ・主な事業 (総収入額の77%は飲食、物販、宿泊業)
  - ・組織体制 (株式会社化、人員体制、中核的人材、事務所及び拠点)
  - ・課題と方向性 (販売チャネルが少ない)
  - ・着地型旅行事業 (IT経由の販売を高めたい)

## ワークショップ内容

【作業1】体験型プログラムを作る

- (1)体験プログラムのポイント
  - ・地域の観光資源を考える(地域観光資源分類からの抜粋)
  - ・地元の人との交流型体験や案内人(語り部)が重要である。
  - ・景色がきれい、この歴史史跡が素晴らしいではリピートはしない(人材の観点が必要)
  - ・現在の旅行は目的志向が強く表れているその為、受入側は旅行の行動ソフトを考える必要がある。
  - ・体験プログラムを作るのは、発着型旅行会社ではなく、地域自身である。
- (2)体験型プログラムを作る
  - 1 地域資源の抽出
  - 2 どのようなお客様に来てもらいたいのか、どのようなお客様が多いと思われるか(ターゲット層)
  - 3 行動ソフトを考える(お客様の行動)
    - 動く ○学ぶ ○交流する ○作る ○観察する
  - 4 地域案内人(語り部)は誰か(どこの、どのような人ですか)
  - 5 時期、時間、場所の選定
  - 6 プログラムの内容(具体的に)
  - 7 フォローアップ(リピーター対策の為に)
  - 8 備考

## 参加者発表内容

2つのグループに分け、ワークショップを実施。

【Aグループ】 洋野町案、普代村案の2コース提案

- タイトル：採れたてホヤを浜で味わう旅
- 09:30種市駅集合後、種市漁港へ移動(ホヤの殻割り体験)
- ハマナス亭昼食(ホヤづくし定食)
- 南部もぐり体験 (種市高校先生や生徒などから学ぶ) 16時解散

久慈広域 普代村

- タイトル：復興国立公園の朝日を一人占め 五右衛門風呂で見る日本の朝日と普代村民の人情に触れる旅
- 復興効率公園の朝日を一人占め
- 五右衛門風呂でちょんまげとふんどし体験
- 猟師飯の昼食
- 蒔き割り体験(普代村の人々との交流)
- 大漁旗作り体験(お世話になった漁師さんへ恩返し体験)
- 季節：夏の時期を想定

【Bグループ】 海と山の2コース提案

海コース

- タイトル：北三陸高級食材買い付けツアー (台湾富裕層をターゲット)
- 集合場所：三陸鉄道の各駅(時期によって、久地駅、野田駅等)
- 季節：食べるものによってシーズンが異なるがオールシーズン対応可能。
- 食事：番屋で昼食
- 移動：三陸鉄道+ジャンボタクシー
- 案内：総合案内は観光協会、現地体験は、地元業者。

山コース 葛巻町+一戸町

- タイトル：山の幸満喫ツアー(森林、温泉、星空)
- ターゲット：ファミリー、カップル
- 発着場所：IGRの奥中山高原駅
- 葛巻町 薪を使ったプロジェクト (木の伐採)
- 葛巻ワイン併設箇所で木工体験
- 奥中山温泉で昼食+入浴
- 日本一の星空の町 一戸町観光展望台で星空体験
- 奥中山高原駅にて解散

【宿題】 地域資源にチェックを入れる。11月末までに完成させる。

今回は点と点。次回は面と面で1日、2日のツアーを作成する。

# 第1回観光コンテンツプロデュースエリア検討会の開催について

県央エリア(山田)会場の様子



会場の様子



ワークショップの様子(その1)



ワークショップの様子(その2)



発表の様子

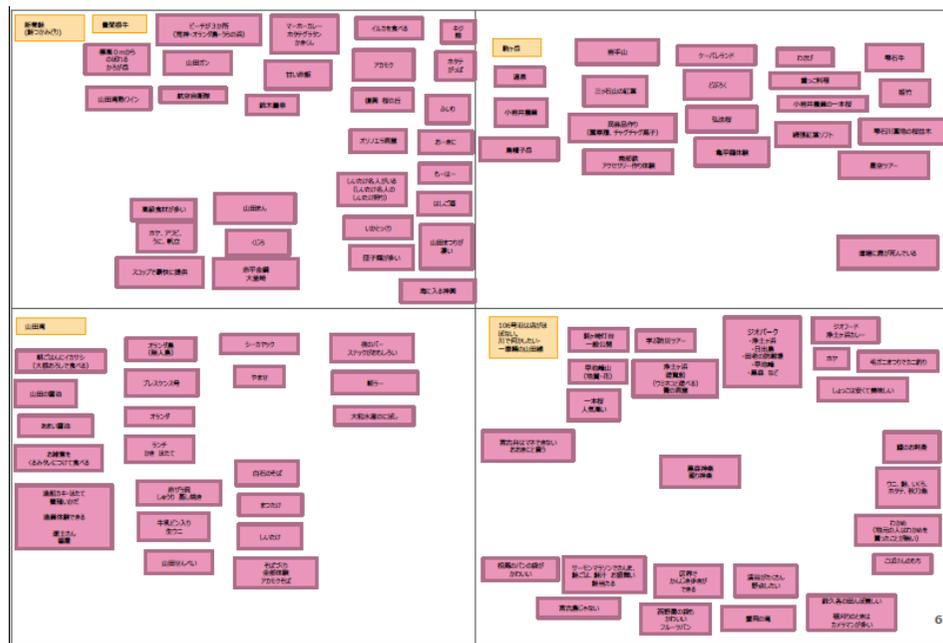
# 第1回観光コンテンツプロデュースエリア検討会議事(県央)

## 座長講話内容

- 座長:ライト・ア・ライト プロデューサー 栗石吉隆氏
- (1)奈良は国際観光都市。
  - (2)鹿せんべいの売上げ年間3,500万。のべ24万人がお買い上げ。
  - (3)年間1,500万人(奈良市)観光客うち150万人が外国人観光客
  - (4)みんなスマホで撮りまくり。大仏より春日大社より何故か鹿が・・・
  - (5)奈良のユニークなお祭り 氷の神様『氷室神社』
  - (6)奈良は『かき氷の聖地』
  - (7)長野の猿 『大人気のスノーモンキー』
  - (8)冬季の平日来場者数150人の半数以上が外国人。
  - (9)みんなスマホでネタ探し

## ワークショップ内容

- 【作業1】グループで協議をして地域資源を洗い出す
- (1)身の回りに転がっているネタを出し合ってみる
  - (2)内陸と沿岸を連携させ、新たな気づきを導き出す
  - (3)風景や食べ物、制限はなし。まずは書き出してみる。



## 参加者発表内容

4つのグループに分け、ワークショップを実施。

### 【山田町】

- 山田湾を出発地点
- 朝食として、イカ刺しを山田の甘い醤油と大根おろしで召し上がる＝山田文化。
- 体験型として、船で牡蠣やホタテの養殖イカダを見学しながらオランダ島へ上陸。
- オランダ島では、牡蠣・ホタテ・シュウリ貝の蒸し焼きを提供。その際の飲み物は、牛乳瓶に入ったウニを提供する。
- 復路は、シーカヤックを利用。
- 昼食は白石集落でそば打体験をして頂き、天ぷらと共に召し上がっていただく。
- 夜は、スナックのママと盛り上がり、翌朝は山田名物朝ラーメンを召し上がって頂く。
- 山田湾に入り込んでくるヤマセは素晴らしい景色。

### 【宮古市】

- ジオパークに注目して観光振興していきたい
- 宮古市にしかないものとして、田老観光ホテル(震災遺構)をガイドと回る商品がある。
- インスタ映えとして、浄土ヶ浜や青の洞窟、サツパ船がある。
- 伝統芸能としては、黒森神楽がある。
- 冬の宮古の鮭。鮭のつかみ取りが出来る。あらまき鮭も味わって頂きたい。

### 【栗石町】

- 特徴として、星空観賞ツアー(ゴンドラで山頂へ登る)がある。
- 紅葉の時期は山が赤く染まりとてもきれい
- 春には、小岩井農場の一本桜と桜並木の観光客が増えている。
- 10種類の温泉がある。

### 【三陸鉄道】

- 冬期間はこたつ列車を運行している。
- こたつ列車で木村商店のイカ徳利で飲む地酒を味わう商品を販売する予定。

### 【食でつなぐ】

- 内陸ではリンゴ、そば、ひつつみ。沿岸では赤皿貝、シュウリ貝が特色。
- ソフトクリームで地域をつなぐ食べ歩きを造成してみたい。
- 地酒でつなぐ『はしご酒』もお勧めできる。
- 体験型プログラムとしては、そば打ち、稲刈り、酒造見学、漁師小屋体験がある。

# 第2回観光コンテンツプロデュースエリア検討会の開催について

## 県央エリア(宮古)会場の様子



会場の様子



ワークショップの様子(その1)



ワークショップの様子(その2)



発表の様子

# 第2回観光コンテンツプロデュースエリア検討会議事(県央)

## 座長講話内容

座長:ライト・ア・ライト プロデューサー 雫石吉隆氏

- (1)岩手県で発信されていること
- (2)行きたくなるコンテンツを発信すること。大切なのは魅せ方。
- (3)旅のモチベーション「撮りたい」「発信したい」「自慢したい」
- (4)「どうやって行こうか」「どこに泊まるか」は目的地を決めた後。
- (5)相手が行きたくなるという気持ちをどう作るか
- (6)映像・画像・動画には言語は必要なし
- (7)三浦学さん(八幡平市カメラマン)動画
- (8)IBC岩手放送で放送した特集「空から未来は」動画
- (9)ドローン利用動画「安比高原頂上の草原」「岩泉の差畑牧場」
- (10)ドローンと連動したVRゴーグルはアクティビティー(商品化)に変えられる。

## ワークショップ内容

### 【作業1】個人ワーク

- (1)映像で見せたいコンテンツ・動画コンテンツを洗い出す
- (2)そのコンテンツをお勧めする理由を発表する。

### 【チェックポイント】

- (1)実施団体
- (2)観光素材テーマは一言で何か
- (3)目的別(ターゲットは誰か)
- (4)ベストシーズンはいつか
- (5)料金
- (6)実施期間
- (7)概要
- (8)近隣名物料理 (時間軸を考える)
- (9)近郊おすすめ施設 (時間軸を考える)

### 【ホテル講和】 鶯宿温泉長栄館 代表取締役社長 照井貴博氏(31歳)

- (1)トリップアドバイザーの活用
- (2)海外のお客様は安心を求めている。信用を求めている。
- (3)旅行ルート上の周辺施設の中で口コミの評判が良いということ
- (4)日本人と外国人を分けて考える必要はない。大切なのはストーリー。

## 参加者発表内容

4つのグループに分け、ワークショップを実施。映像・インスタ映えするものを発表。

### 【宮古市】

- ・浄土ヶ浜から昇る朝日、月夜、カモシカ、ウミネコ、青いソフトクリーム
- ・本州最東端にあるトケ崎高原(歩いていくには困難な場所)、潮吹き穴
- ・宮古盛岡間の106号線の紅葉+電車+滝
- ・大盛りの海鮮丼、毛ガニの山盛り
- ・鮭の漁で腹子を取るときの手さばき、鮭のつかみ取り
- ・松明しの風景(お盆の時期)
- ・源兵衛平の一本桜
- ・シーカヤックの街

### 【盛岡市】

- ・わんこそば(お椀を重ねた写真)
- ・花見で酔っている人々の写真

### 【雫石町】

- ・雫石山園地の桜並木
- ・南昌山の紅葉+バスで行けない葛根田周辺景色

### 【滝沢市】

- ・スイカのガスタンク

### 【岩泉町】

- ・早坂高原の桜、新緑、紅葉、短角牛、豆腐のストーリー
- ・龍泉洞(恋人の聖地、イルミネーション)、冬のコウモリ、263段の階段

### 【田野畑村】

- ・ドローンを購入し、活用している。
- ・鶴の巣断崖から北山崎。津波石。スキューバーダイビング。日の出。三陸鉄道。

### 【山田町】

- ・「やませ」「けあらし」・ホタテの養殖場・定置網漁・イルカ・オランダ島、赤平金剛

### 【その他】

- ・秘境駅「白井海岸駅」
- ・宮古室蘭フェリーAM6時着の早朝歓迎が課題。

# 第1回観光コンテンツプロデュースエリア検討会の開催について

県南エリア(大船渡)会場の様子



会場の様子



ワークショップの様子(その1)



ワークショップの様子(その2)



発表の様子

## 座長講話内容

- 座長: JTBグローバルマーケティング&トラベル営業企画部 阿部昌孝氏
- (1) 東北観光推進機構の取組(広域観光周遊ルート形成促進事業)
  - (2) 1年間を通した平準化戦略を考えることが重要(東北は新緑も魅力的)
  - (3) FIT集客方法(インバウンド商品の流通動向を考える)
  - (4) FIT販売には戦略的オンライン販売の仕掛けも重要
  - (5) 着地型商品は手仕舞日が重要
  - (6) 着地型旅行商品化に必要な商品流通の仕組みづくりの考察
  - (7) 訪日旅行者向け着地型商品『サンライズツアー』の概要
  - (8) 商品計画及びラインナップの考え方
  - (9) 商品の一例及び販売チャネル
  - (10) 商品造成の仕組み
  - (11) 着地旅行商品の課題に向けたチェックポイント

## ワークショップ内容

【作業1】グループで協議をして地域資源を洗い出す  
(1) 身の回りに転がっているネタを出し合ってみる

### 【商品造成のポイント】

- (1) 販売開始時期は3~6か月前
- (2) 事業パートナー様との契約条件整備
- (3) 旅行商品を『在庫』化し管理・販売
- (4) 旅行商品の手仕舞日

### 【着地型旅行商品の課題に向けたチェックポイント7つ】

- (1) 市場ニーズとのマッチング
- (2) 交通の利便性
- (3) 隣県のコンテンツとの差別化の可能性
- (4) セールスポイントの分かりやすさ
- (5) SNS投稿向けの画像への期待度
- (6) 受け入れ環境(人材、多言語ツール等)
- (7) 金額の妥当性

## 参加者発表内容

4つのグループに分け、ワークショップを実施。

### 【釜石市】

- 釜石大観音、鉄の歴史観、道の駅仙人峠(紅葉)、釜石ラーメン、浜千鳥
- 世界遺産橋野鉄鉱山、2019ラグビーW杯、甲子川のあゆ全国1位の味。
- 中村屋の海宝漬、釜石線のSL銀河、新日鉄住金の見学体験、トロッコ体験

### 【大船渡市】

- 碓氷海岸『穴通船』、魚市場、屋形船、さんま祭り、吉浜アワビ、キャッセン大船渡、
- サンマの水揚げ量本州1位、かもめの玉子工場見学、ちんどん寺町一座全国1位
- ド根性ポプラ、三陸大王杉、秋刀魚漁船(5艘)、スキューバーダイビング体験
- 大船渡線のドラゴンレール(ポケモン列車)、恋し浜ホタテバーガー、海釣り&溪流釣

### 【陸前高田市】

- 動く七夕、けんか七夕、米崎りんご、箱根山テラス、酔仙、千昌夫。
- 一本松、全国太鼓フェスティバルは質が高くPRしていきたい。

### 【釜石市・大船渡市・陸前高田市共通点】

- 三陸、五葉山、ジオパーク、震災学習、釣り船、道の駅。

### 【花巻市】

- 花巻温泉を基軸とした台湾コース例を作成  
(仙台INOUT)または(仙台IN函館OUT)3泊4日が多い。
- 花巻温泉⇒遠野ふるさと村⇒浄土ヶ浜(昼食)⇒龍泉洞
- 花巻温泉⇒南部杜氏⇒えさし藤原の郷⇒中尊寺⇒猯鼻溪⇒松島海岸⇒仙台アウトレット⇒仙台空港(団体主流コース)

### 【奥州市】

- 後藤新平、江刺りんご、金札米、前沢牛、回進堂の羊羹、及源の南部鉄器、胆沢ダム(桜のトンネルライトアップ)、カヌー体験も検討。餅文化。
- 猯鼻溪(夜間ライトアップ)

### 【遠野市】

- SL銀河とバケツジンギスカン、多田克彦チーズ(四季島提供)、遠野ホップ収穫祭

### 【その他】

- 花(猯鼻溪の紫陽花、大船渡の椿)やフルーツ狩り

## 県南エリア(大槌)会場の様子



会場の様子



町長挨拶の様子



ワークショップの様子



発表の様子

# 第2回観光コンテンツプロデュースエリア検討会議事(県南)

## 座長講話内容

座長: JTBグローバルマーケティング&トラベル営業企画部 阿部昌孝氏

- (1)着地型旅行商品とは何か。
- (2)ここでしか出来ない『ニッチ』や『オリジナル』を考えることが重要
- (3)料金設定の重要性
- (4)ゲートインゲートアウトは、新幹線・車・内陸から・沿岸から等様々。
- (5)ハワイのオプションツアーを参考に
- (6)五感に訴えるシナリオ作り=物語化
- (7)食事+エンターテイメントは一つの商品になり得る。
- (8)申込期限の重要性。外国人旅行客は旅中(前日・当日)申込みが多い。
- (9)復興道路を活用した交通の利便性向上について

## ワークショップ内容

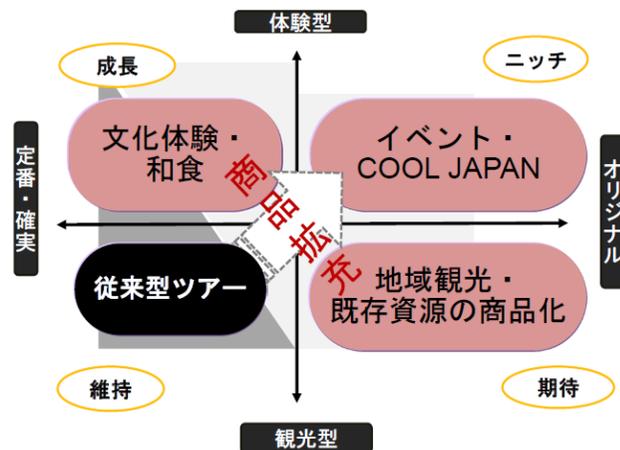
【作業1】グループで協議をして地域資源を洗い出す。

- (1)地域の従来型の観光素材
  - (2)文化体験・和食
- ※ここでしか出来ないものを整理する。

【作業2】作業1で出し合った素材を活かして、1泊2日または2泊3日の3つのルートまたは3つの旅行商品を書き出す。

※商品として必要な基本項目10をチェックしながら考える。

- (1)従来型の観光ツアー
- (2)体験型のツアー
- (3)ニッチなもの



## 参加者発表内容

4つのグループに分け、ワークショップを実施。

### 【遠野・大槌・釜石市】

- ・山、自然、鉄道、景色、鉄、文化などを出し合った。
- ・2泊3日プランA(釜石宿泊プラン)  
1日目SL銀河を利用し、昼から遠野で市内サイクリング+バケツジンギスカン昼食。カッパ縁や伝承園を周遊し釜石線にて移動し、釜石宿泊。  
2日目は、釜石大観音+漁船体験。午後はバスで移動し大槌で地元料理。三陸鉄道で大船渡へ移動。
- ・2泊3日プランB(遠野宿泊プラン) テーマは遠野の文化体験。  
1日目SL銀河を利用し、遠野ふるさと村体験をし、夜は神楽観賞して宿泊。  
2日目電車で釜石へ。鉄の歴史観、大観音を見学。昼食は釜石ラーメン。  
大槌へはバスで移動し、ジビエ料理を体験し、三陸鉄道で大船渡へ。

### 【一関・大船渡・釜石市】

- ・テーマ『世界遺産を巡る旅』  
一ノ関昼出発。世嬉の一で酒造見学。昼食は餅膳。幽玄洞見学+日本百景の往復手漕ぎ船下り体験。時間があれば紙すき体験も入れて、ベリーノーノ関へ宿泊。  
2日目は、中尊寺朝6時のお経+平泉朝ごはんプロジェクトでの朝食。その後、江刺藤原の郷にて体験+昼食後、大船渡の碁石海岸へ。宿泊は漁師さん経営の温泉へ。2次会は大船渡の飲み屋街へ。  
3日目は、三陸へ移動し、きっぴんアワビでかんぼうづくり体験。体験後、三陸鉄道貸切(お弁当昼食)で釜石へ。鉄の歴史館、橋の鉄鉱山を見学し、宝来館へ宿泊

### 【釜石・大槌町】

- ・テーマ『いにしえの日本 もののけ姫の世界観』  
海の信仰と山の信仰が鉄というストーリーで交わる1年間の唯一の時である『釜石まつり』をメインコンテンツとして検討。広域連携としては、花巻の宮沢賢治と遠野物語の世界観を繋げる。2泊3日を想定し、曳舟まつり+漁業体験。夜は虎舞のアトラクション。2日目は釜石祭りを観賞し、橋の鉄鉱山へ導く。

### 【北上・大船渡市】

- ・テーマA 『黄金文化』中尊寺金色堂+秀衡塗体験+住田町砂金採り体験。
- ・テーマB 『語り部』
- ・ヤクルト工場見学、かもめの玉子工場見学、餅つき体験、南部鉄器、ワカメの芯抜き体験、ツールド三陸、大槌ヒルクライム、釜石トライアスロン、神楽なども意見あり。